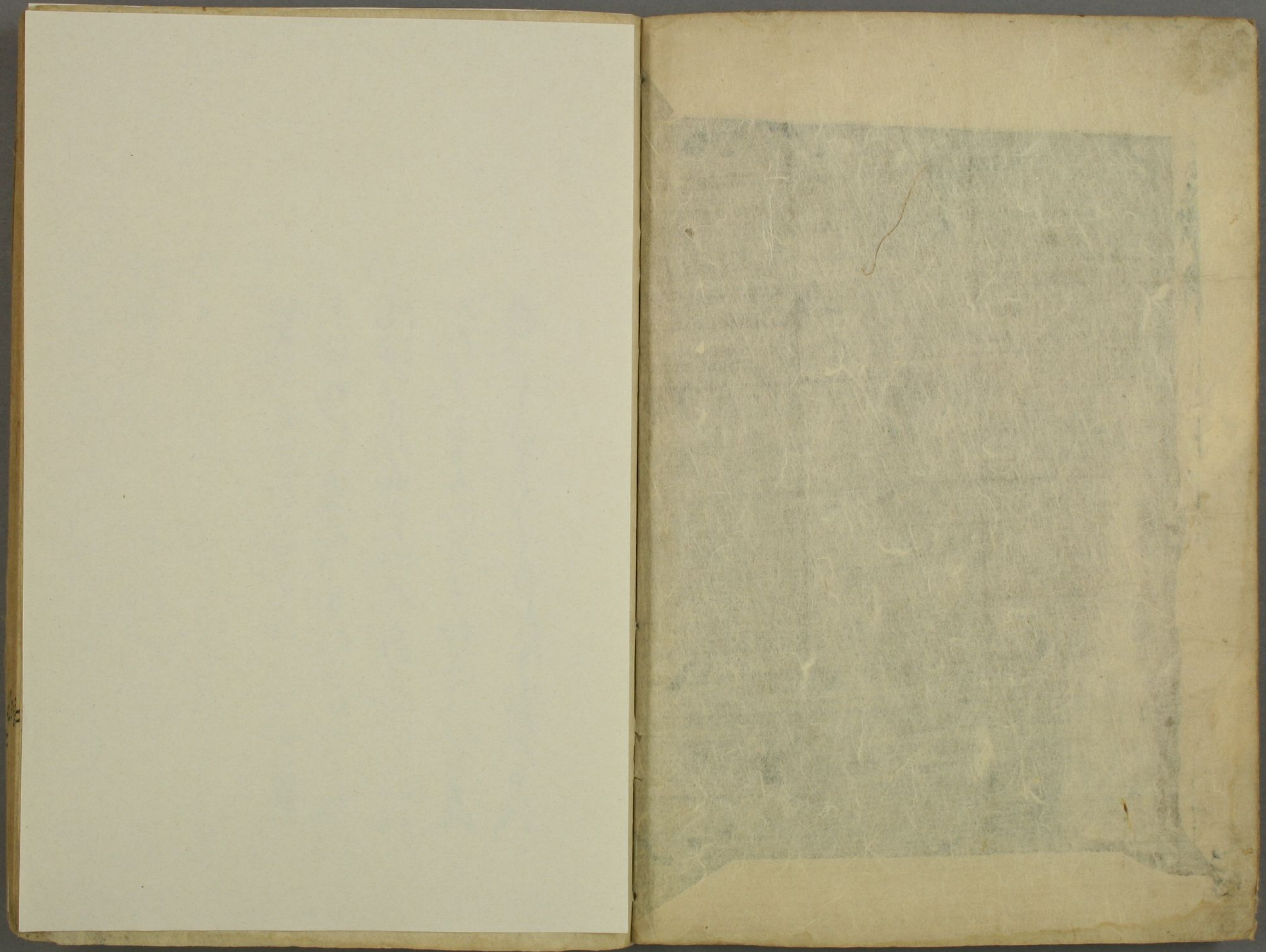


中村俊定文庫
文庫 18
144





笠をて長途のふくむらうの衣衣い
もゆわく農あ〜にまをきり
徒はうたさる人あ〜何とに
おほえんやうむの〜犯奇れ方ま
國〜ふ図がら



出ま〜り



芭蕉

ねりこが〜れ身を行ふ〜
き〜も〜り〜家〜の〜茶花 野水
有得の〜ゆ〜酒を〜
〜〜れ〜を〜あ〜の〜
朝鮮のほ〜り〜は〜あ〜
り〜ち〜わ〜に野〜茶を列 正平

二

わのよわをとほつたつむのいふまへに野水
騒ぐやよよふ志のお身のうりて芭蕉
わりのつゝも乳を志あめんを又
こゝんぬつともへつすこゝとなくあつた
新法カケホウのあつたつすまじく火と焼く芭蕉
あつたつてらんつちよんて虚家クラヤ 杜因
田中つたつてらんつちよんてつちよん
お務つたつてらんつちよんてつちよん

あつたつてらんつちよんてつちよん 杜因
おつたつてらんつちよんてつちよん 芭蕉
二の尻つてらんつちよんてつちよん 杜因
おつたつてらんつちよんてつちよん 芭蕉
あつたつてらんつちよんてつちよん 杜因
おつたつてらんつちよんてつちよん 芭蕉
あつたつてらんつちよんてつちよん 杜因
おつたつてらんつちよんてつちよん 芭蕉
あつたつてらんつちよんてつちよん 杜因
おつたつてらんつちよんてつちよん 芭蕉

望ぬ夢を無程めしぬるも小町も待た
そふくはさしきくふり唐菅 燈水
さうくはさしきくふり人の背の向 杜國
鳥賊いさふもの國はさしきく 夢又
あふくはさしきくふり 都么 燈水
秋水一斗 一さうくはさしきく 夢又
白糸の糸子白う坊く 月をみんて 夢又
中く不槿なまふし 琵琶 夢又

ふしの夜さうぬるは夕に秋く 夢又
算く 簾の裏をいさく 夢又
わいのつとあまふし 夢又
さふくはさしきくふり 夢又
綾いさく 夢又
廊下を藤のさしきく 夢又

あつちの壮年

あつちのあつちを振る

あつちのあつちを振る

埜水

あつちのあつちを振る

杜國

あつちのあつちを振る

芭蕉

あつちのあつちを振る

荷弓

あつちのあつちを振る

重五

あつちのあつちを振る

正平

るる遊る海老の回標おあうて 杜園
奥のこけりくまの飛只なまにやく 禁水
床もまうくはせしんいこたも男 荷
縁さゆきけ此恨このまわー ぐさ
口かこい痛^{イタ}まらまの地あうかよ 水
明日をうさのまにさび道あまこ ち
か三ちうく益らうあなうくま 芭蕉
月無くまのれ牡丹 ぬす人 杜園

魂あふのがわいぶれ習落く 重
あけくまのれ牡丹のいさうく 杜園
まぶあうらあまをさのハ 山本 時
櫛くこに餌をゆう初ああのおう 芭蕉
うらまも起らんあ端くあし 芭蕉
藤あつく梢を初れ幕さのし 時
三線あうん不破のせま 人 芭蕉

るすらつて思ひて打やう基と云ふは
祢と云くのと云くを 七十 杜國
奉りめ原の草よりとせうらめあふ
いとの傘カれ下ニあわたり
蓮花と雲の子遊ふ夕トも
やまにまつら 落クるもとと
月トもくく唐物の髪ト未だ
急トめぬ臨ニ舞トもトい

秋静カら虚カらカらカら
あつてふとちり
後よりカをカらカらカら
花トもト典ス侍ケのカ房カのカ内カ情カのカ杜カ國カ
こふ此カをカ鸚カ鵒カ尾カのカ此カをカいカふカをカまカすカ
——カのカこカらカらカらカ越カのカ招カ活カ別カ為カ

つえをひく事僅く

十歩

清く美く月をわあす露のふ 杜國

こわりのゆきり 水のひふすく 重五

齒原の露を初霜人知る 負 野水

山の門を 行 あふ 結 らる 芭蕉

馬糞 搔 あふ た 風 の お す と 荷弓

茶は 後 者 お し む 時 の 露 云 莫 正平

捨しふるを柴舟長くタケのらつて心カ時水
晦日ミカとてむく刀賣り年一ま
千石の紀吳孤國の笠免つりま荷
襟ししる雄の片袖をとくくま
あつくと得た衣箱と吞物と
芥子のぬくく名とるは禪杜五
三月月の東を暗く後の縁 芭蕉
好遊うらうく琴とくと 者野あ

京風月なゆるしてとぞと放る 杜園
洋よみ本念佛教あるつる 荷
あけすもは燈なりくに起健く 野水
あつて心も夜風の帯り 帯又
あつた飛たすあ花はうらま入 荷
このらとるりあもあつてと

なま波はくあゝ火編あま
よゝらまきしとせ

炭賣れまのすまゝを思ふる免

重五

ひもはら糖花を鏡 磨 寒 荷弓

花蘇馬骨のまねく咲まわ 杜國

鶴りんごまはれ月うすのまね 野水

うねり吹ぬ秋の白瓶に酒をさす日 芭蕉

花織るうさな市々振ゆる 羽笠

賀茂川や胡麻千代糸の徹を^ヤ 侍り
いそらの尊なるの^ハ ねえ 重臣
ねふと布操哥とわたりし^ハ 野水
ふかきとちか^{ニルカホ} 越る三平 社園
捨らけくわらわ^ハ 鴛鴦離也
火とぬ火燧ふと人と見え^ハ 世意
門守の翁に家子^ハ くらげ寝^ハ さま
血刀く^ハ 次月の侍^ハ 高

旁りて本郷の籍^ハ 七^ハ 社園
あゆみ納豆^ハ くらげ寝^ハ 神水
とく^ハ 泣橋の徹と^ハ 守り^ハ 道徳
僧とのい^ハ 吹敷冬^ハ 春^ハ 羽衣
白燕帰^ハ め^ハ 水^ハ ぬ^ハ 洗^ハ 白^ハ 鶴
宣言が^ハ くらげ^ハ 釘と籍^ハ 社園
十年と^ハ 三^ハ 何^ハ 童^ハ 母^ハ 社園
な^ハ くらげ^ハ 七^ハ 夕^ハ の^ハ 社園

西東く桂枝のしのぶの夢のまじり 羽生
 蘭のあふらりく ト本く音 芭蕉
 勝らんかきく 賢翁の女らんく 重文
 物瓶に粟をたけふ日のくれ 荷引
 とやわあく 稚子なる正月く 杜園
 けい 茨手向る 舟をさる文 舟水
 宣りりらん 且と報治れ急起く 芭蕉
 ちんがりのしよ 柳 糸 の地 羊 羽生

いづきして 誰をそとくぬ人の像 荷引
 涙くさく 涙のこころ本芥の根 重文
 粥すく 飯あつま 花がよこすわ やま
 朽衣のたろく 程ふは 風 芭蕉
 小浜のこたろく 簾のやわく 羽生
 移るまの 夢へ 青らるむる 杜園

田家眺望

雲月や鶴カラのイツク々あらいあそ 荷兮

冬これ物りさらあらいならずわ 芭蕉

櫻檜山丸の体と不れ糸際際 重五

の茶どろろしれ塩とあれつ 杜國

音をめめと具足く月のすすと 羽笠

酌もろ童志糸切り 埜水

秋のころ猿如連歌いづりし
 淋ぐくし多事富士こゆる寺 待兮
 舞として椿花の落る音 杜國
 茶こく系遊花くむる風の考 市又
 雉追に烏帽子儿女又三 十 時水
 庭ア一木芳地くくいの落衣 羽豆
 をけりよ山橋くあくくくん 荷兮
 麻うわとふ舟の集 わじ 世意

江ををく獨采菴と世を捨く 世又
 家内出く身そかあろく 杜國
 ちまの衣帯く一落花と赤拂 羽豆
 篋輿ゆる波木瓦の山あは 時水
 骨をたぐくく出くく洞くくくわ 世意
 乞食は義とくふ志の先 待兮
 泥のくは尾を引鯉を捨ん 杜國
 所幸く進むみくく 世又

下にてろろ卒此小角豆の花はらり 野水
 萱屋まのうらに炭團はく 白羽豆
 芥子あまこれ小坊交わしきむら 菖蒲
 おひくくまののみをくら連は實 芭蕉
 志のうきく飯屋のく月のあま 芭蕉
 病とくこころは風やふゆしよ 杜國
 釣橋より屋根ゆれをくら片庇 芭蕉
 豆腐つりりて母を喪く 入 野水

之改ら草此後之破あへり 芭蕉
 伏りん木橋の蔭をいそぐり 芭蕉
 つらゆき男猫いよふ捨て 杜國
 芥のあらすれ雪をいそぐり 芭蕉
 水干とあまの聖わやうり 野水
 山茶花白小笠れこころ 野水

追加

いづしりんよと花雨しとる川敷

お笠

橋火いあぶらあはらうの松荷

とくさ^カ下志に焚をちや^カはんと

檜^カ五くまを屋のいし船あ杜園

船^カい路かりし月色 海 芭蕉

ひらりく橋をよりの岐阜山 禁水



